

第3回聖籠町公共交通検討委員会 議事要旨

日時：令和元年10月29日（火）15：00～17：10

場所：聖籠町役場3階大会議室

出席委員：藤堂委員、渡邊委員、河村委員、五十嵐委員、齋藤委員、高橋委員、山口委員、森田委員、新保委員、菅原委員、小川委員、森委員、渡邊委員、諸橋委員（代理出席）、安齋委員

事務局：夏井副町長、生活環境課：藤田課長、高橋補佐、勝見主任、子ども教育課：宮下補佐

次第

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

- (1) 前回までの検討会でのご意見
- (2) 公共交通の形態についての検討
- (3) はまなす号と次第浜路線バスの統合・再編
- (4) 料金見直しについて

議事 (1) 前回までの検討会でのご意見

- 事務局から資料説明
- 説明を受けての質問・意見
質問・意見なし

議事 (2) 公共交通の形態についての検討

- 事務局より資料説明
- 説明を受けての質問・意見

会長 聖籠町の循環バスは朝夕の高校生の利用が多いことから、バスでの運行形態が望ましく、朝夕にバスの形態を残したまま昼間にデマンド型の運行形態を取り入れた場合は二重の経費が掛かってくるのではないかという説明であったが、事務局としてはデマンド型に切り替えるメリットは少ないということか。

事務局 朝夕をバス、昼間をデマンドとした場合、バス経費も昼間全く使わないから費用が発生しないということではなく、運転手の待機料が発生すると思われる。そこにデマンド費用が発生するため、費用としては二重に掛かってくる場合もあると考える。

どの方式がいいのか委員の皆さんのからご意見をいただきたい。

委員 バス見直しの話は、日中の利用をどうしようかということから始まっている。15年間運行してきてこういう（日中利用者がすくない）状態になっている。そのことから、今の形態はやめて、デマンドにした方が良いのではないか。日中を救おうということであれば、デマンドの方が安上がりになるのではないか。

路線を簡素化したいとのことであるが難しいのではないか。少ない利用者がさらに少なくなる恐れがある。

事務局 朝夕をバス方式、日中をデマンド方式にするのは、利用者数から見て良い方法かもしれないが経費的には増加する恐れがある。

会長 バスの運転手は時間雇でないため、日中バスを走らせなくても一日分の人件費が発生する。削減できるのは燃料代だけで、そこにデマンド経費が掛かってくるということか

事務局 そのとおりである。

委員 利用している方から、デマンドになった場合は予約する手間が面倒との声がある。

委員 資料から見ると、経費の削減の提案はないのではないか。

事務局 次の議題で取り上げる路線の統合で経費の削減をはかっていければと考えている。

委員 経費を削減するためにはバスの運転手を減らすか、路線を減らすか、便を減らすかしかないのではないか。

委員 日中の運行をどうするのかという問題であるが、朝夕バスで日中デマンドとした場合は配車電話対応や配車などの経費が余計に掛かってくるので今よりも経費が掛かる。利用者は予約するという手間がかかる。ではどうするか。経費削減するためには、日中の路線の見直しと、委託先に費用の値下げ交渉しかないのではないか。

委員 今のバスで問題となっているのは、便数が少ないのでちょうどよく帰って来られる便が無いことや、目的地まで時間がかかるということではないか。乗車率の低さがそれらに起因するのであれば、不便さを解消するために、曜日などで地区を決めて便を集中し、利便性を向上させるという方法はどうか。

委員 朝夕だけバスを運行し日中は運行しない。運行しない間はボランティア輸送などの別の方法を考える。というのであれば経費が削減されるのではないか。

委員 利用者を増やす方法はどうか。

事務局 行って帰って来られる。乗り継ぎポイントも固定し、分かりやすいダイヤにすることにより利用しやすくなるのではないかと考える。加えて、病院・商業施設などと相談し、何時に到着すれば使い勝手がいいのかなど聞きながら時間を決めていきたい。

議事 (3) はまなす号と次第浜路線バスの統合・再編

○事務局より資料説明

○説明を受けての質問・意見

委員 統合案では、はまなす号で新発田に行く場合は乗り継ぎなしということか。

事務局 新発田駅に行く場合は、乗り継ぎはない。佐々木駅や中央高校方面に行く場合は役場で乗り継ぎが必要となるという案である。

委員 資料によると、朝の路線バスと循環バスの乗車人数を合計すると50人を超えることとなる。現在の循環バスでは乗り切れないのではないか。

事務局 これから協議であるが、一番乗車人数が多いところは、大型の路線バスで対応したいと考えている。

委員 統合した場合、運行本数や経路はどうなるのか。

事務局 細部についてはこれから検討するが、運行本数はさくら号・さくらんぼ号とのつながりを考えて決定していく。路線についてはあまり集落に入らずにシンプルな路線にしたいと考えている。

副町長 路線バスと循環バスを統合した場合、今まで2本走っていたものが1本になるというのはどういう感じに受け止められるか。

委員 利便性が低下しなければ良いのではないか。乗り継ぎに関係なく、目的地に間に合えば問題ないと思われる。今利用している高校生は中央高校生、新発田市街の高校生、新潟方面の高校生と3パターンくらいに分かれる。遠いほど早い便に乗らなければならないので、間に合うような時間で運行してもらいたいが、便数を増加するのも限りがあるので、そこら辺でどう折り合いをつけるかということ。資料では50人くらいそれぞれのバスを利用しているとのことだが、もっと利用したい人はいると思われる。利用しない人は自分の都合に合わない（ちょうどよい便が無い）ということ。

委員 統合案を見ると役場を中心として放射線状に路線が伸びている。町内の拠点と拠点をつなぐ循環線というのは考えているか。

事務局 循環線を作る場合もう一路線増やすこととなり、経費的な面でも増となるため考えていない。

事務局 前回の意見で、朝、新発田方面に行く電車に間に合わないとのことであったが、現状のダイヤでは新潟方面電車時刻にバス時間を合わせている。便数が限られていることから、すべてをカバーすることはできない。新発田方面の早い電車利用希望者は多いか。

委員 新発田保面の利用か分からないが、6時台に佐々木駅に送っていくと、同じように早い電車のために送ってくる方が相当数いる。平日の早い便よりも土曜日の便があれば良いという方は多いと思われる。

委員 現状では、さくら号とさくらんぼ号方面の方は新発田行きの路線バスに乗れないため、別の方法で新発田市街に行くしかない。

今の循環バスで亀代地区から佐々木駅に一番早く到着する便でも7:24発新潟行きの電車しか間に合わない。それよりも前に乗りたい人にとっては利用する便がないという現状。

委員 今日で3回目の委員会であるが、何も決まっていない感じである。5回で取りまとめ

とのことであるが、もう少し先に進まないと間に合わないのではないか。

資料で福祉バスについて触れているが、ボランティアというのは不確実なもので、公共交通としてはいかがなものか。反対である。全国的に見ても、公共交通の赤字は当たり前であると思われる。近隣を見ても運賃が 100 円というのはあまりないのではないか。200 円が良いと思う。日中の運行方法として、デマンドはどうかということであるが、利用する高齢者はデマンドにすると事前予約ができないのではないかと思われる。そういうことから運行方法としては定期バスの形態を維持し、車両を小型化して経費を削減する方法が良いと思う。

議事 (4) 料金見直しについて

○事務局より資料説明

○説明を受けての質問・意見

委員 新潟交通の路線バスで新発田に行く場合、次第浜からだと 540 円かかる。合わせて考えていく場合、運賃は 100 円でなくても 200 円でも良いと思いますし、現在乗り継ぎは無料だが、乗り継ぎの場合は少し割り増しにするとか、乗る側としては必要で乗っているの、町内乗り継ぎで佐々木駅まで 200 円かかったとしても仕方がないのかなと思う。

委員 200 円でも乗る人は乗ると思う。収入が倍になるとは限らないが、10 月から消費税も上がったことであるし、しょうがないと受け入れるのではないか。

委員 一人暮らしの高齢者も多く利用している。値上げしてでもいいから継続してほしい。200 円にしても良いと思う。

会長 割引についてはどうか。

委員 高齢者についても半額程度であれば受け入れてもらえるのではないか。

委員 路線バスと循環バスを統合したら料金はどうなるのか。

事務局 町が次第浜新発田線を委託路線とすることも検討している。その場合は循環バスベースの料金としたいが検討はこれからである。

副町長 仮の話で、そういう選択肢もあるという話。あくまで町内に関してはさくら号・さくらんぼ号との整合性があるので循環バスベースで同料金でなければならない。しかし、町外へ出た場合は別の話になってくる。町内ベースで料金を考えるというのは無理がある。路線の統合については、そういう選択肢もあり得るということ。新潟交通観光の諸事情もあるし、町としても経費の節減という意味でどれだけ効果があるのかという見極めもある。このような選択肢もあり得るのではないか、そうした時に住民みなさんはどのように思われるのかという観点から委員会に提示した。

委員 委員会では「料金増額でよし」としており、仮に料金を 200 円に増額するという委員会の総意をパブリックコメントにかけたところ大反対であった場合、町としてはどうするのか。

副町長 パブリックコメントで反対が多数あった場合は再考をしなければならない。検討会でいろいろな観点から議論したなかで、値上げをすることの理屈が立っているのであれば、それを説明していく。しかし、想定していなかった理屈で値上げはいかがなものか、という意見があれば真摯に検討していかなければならない。

委員 値上げをするのであれば定期券などで割引をするというのも検討してはどうか。

会長 この検討委員会では詳細まで決まったプランをここで作るということではなく、町から出された問題提起に対して、町民・関係者のみなさんで検討したうえで、あくまで方向性示すということ。詳細に関してはまだ不十分な点があるかとは思われるが、方向性に関して第4回、第5回で決めていければと考えている。

(文責は事務局。事後修正する場合があります。)